

**2012年3月期 第2四半期(中間)決算の概要
および
2012年3月期の業績見通しと取組み**

2011年10月27日(木)

**コマツ
経営管理部**

**1. 2012年3月期 第2四半期(7-9月)
および
上期(4-9月)の実績**

2012年3月期 上期(4~9月)の概況

1. 売上・損益：建設機械・車両、産業機械他、両部門とも対前年同期比増収増益。
営業利益は+27.9%の増益、売上高営業利益率は+1.4ポイント改善し13.5%。

	2010年4~9月 (FY10/上期)	2011年4~9月 (FY11/上期)	対前年同期比
連結売上高	8,597 億円	9,858 億円	+14.7 %
営業利益	1,039 億円	1,329 億円	+27.9 %
売上高営業利益率	12.1 %	13.5 %	+1.4 ポイント
純利益*1	637 億円	946 億円	+48.5 %
ネットD/Eレシオ (リテールファイナンス会社を除いた場合)	0.52 (0.26)	0.52 (0.24)	- (0.02ポイント改善)

*1 米国財務会計基準審議会会計基準編纂書810による「当社株主に帰属する四半期純利益」

2. 各セグメントの状況

- 建設機械・車両：中国の需要が減少したものの、他地域、鉱山機械、部品は堅調に推移し、売上高は対前年同期比+12.0%増収。為替レートが、ドル、ユーロ、元に対して大幅な円高となったが、数量増に加え、販売価格の改善、原価低減等に努めたことにより、セグメント利益は対前年同期比+17.5%増益。セグメント利益率も14.0%に改善。

- 産業機械他：ワイヤーソーの受注が減少したものの、既受注分の出荷が進むとともに、プレス機械、工作機械および仮設ハウスの販売増により対前年同期比+34.3%の増収、セグメント利益も対前年同期比2.5倍に伸長。

(参考) 売上高、利益の米ドル、ユーロ換算値*

(百万米ドル)	FY10/上期	FY11/上期	増減
連結売上高	10,235	12,803	+ 25.1%
営業利益	1,237	1,727	+ 39.6%
純利益	759	1,230	+ 62.1%

(百万ユーロ)	FY10/上期	FY11/上期	増減
連結売上高	7,542	9,479	+ 25.7%
営業利益	912	1,278	+ 40.1%
純利益	559	910	+ 62.8%

*各期末の為替レートを使用。

3. 中間配当金：21円（前中間期：18円）

(注) 本資料では第2四半期累計(4~9月)を「上期」と表示します。

3

1. 売上・損益他

□2012年3月期上期(4~9月)の業績は、建設機械・車両部門、産業機械他部門とも前年同期比増収増益となり、連結売上高は前年同期比14.7%増、営業利益は同27.9%増となりました。

□売上高営業利益率は前年同期の12.1%から13.5%に改善しました。

2. 各セグメントの状況

<建設機械・車両部門>

□売上高は、中国の需要減少を好調な他地域および鉱山機械、部品などの売上でカバーすることで前年同期比12.1%の増収となりました。

□セグメント利益は、大幅な円高を販売数量の増加および販売価格の改善などでカバーすることで前年同期比17.5%の増益となり、利益率も改善しました。

<産業機械他部門>

□ワイヤーソーの受注は減少したものの、震災被災地向け仮設ハウスの販売増などによって、前年同期比34.3%と建機を上回る率の増収になりました。

3. 中間配当金

□中間配当金は、当初の計画どおり21円で取締役会決議をいたしました。

2012年3月期 第2四半期（7～9月）の連結売上高と損益

- ・中国市場の減速を、その他地域、鉱山機械、部品等でカバーし、対前年同期比増収増益。
- ・建設機械・車両、産業機械他両部門ともに利益率が改善。売上高営業利益率は13.1%に向上。

（ ）: 利益率 (): 外部顧客向け売上高

金額単位: 億円

	2010年7～9月 (FY10/2Q) 1ドル=85円 1ユーロ=111円 1元=12.6円		2011年7～9月 (FY11/2Q) 1ドル=77円 1ユーロ=109円 1元=12.1円		対前年同期比	
					増減	伸率
売上高		4,126		4,916	+790	+19.2%
- 建設機械・車両	(3,584)	3,589	(4,183)	4,197	(+599) +607	(+16.7%) +16.9%
- 産業機械他	(541)	573	(733)	758	(+191) +185	(+35.4%) +32.3%
- 消去		▲36		▲39	▲2	-
セグメント利益	12.3%	507	13.1%	646	+138	+27.2%
- 建設機械・車両	13.4%	480	14.1%	592	+112	+23.4%
- 産業機械他	7.2%	40	8.3%	62	+21	+53.3%
- 消去または全社		▲13		▲9	+4	-
その他の営業収益(▲費用)		*1 ▲9		0	+9	-
営業利益	12.1%	498	13.1%	645	+147	+29.6%
その他の収益(▲費用)		1		▲27	▲29	-
税引前純利益		500		618	+117	+23.6%
純利益 *2		330		389	+59	+17.8%

*1 構造改革費用▲10億円を含む

*2 米国財務会計基準審議会会計基準編纂書810による「当社株主に帰属する四半期純利益」

□2011年7～9月（以下「当四半期」）の売上高は、ドル、ユーロ、元に対する円高の影響があったものの、19.2%の増収となる4,916億円でした。

□建設機械・車両部門の売上は、対前年同期比16.9%増の4,197億円となりました。

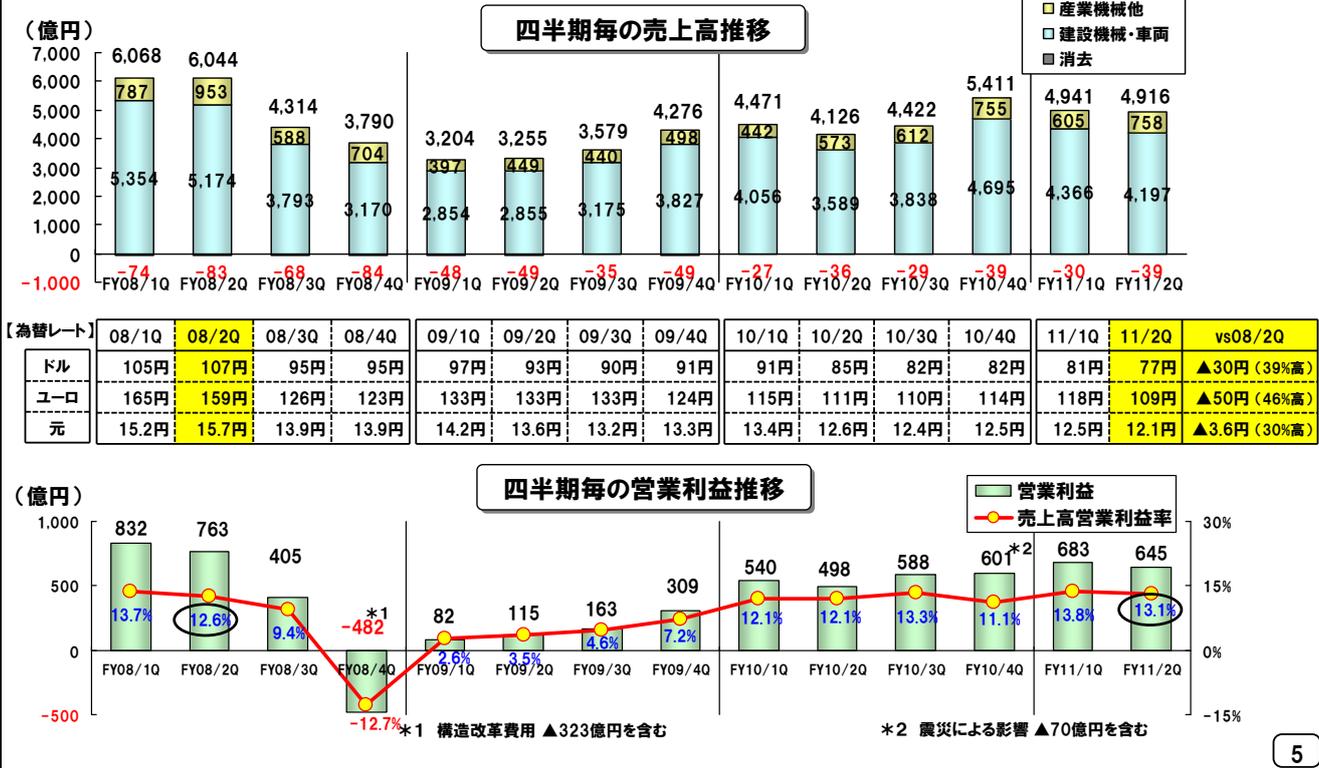
□産業機械他部門の売上は、仮設ハウスが売上が伸びたうえ、半導体リソグラフィ用レーザー光源を製造販売するギガフォンを連結売上を含めたことにより、建機を上回る前年同期比32.3%の増収となりました。

□セグメント利益は前年同期比27.2%増の646億円となりました。利益率は13.1%で前年同期に比べ0.8%改善しています。建設機械・車両部門の利益率は14.1%となり、四半期ごとに利益率が向上しています。

□純利益は対前年同期比17.8%増の389億円となりました。

四半期毎の売上高と営業利益の推移

大幅な円高の影響を、販売価格改善、固定費抑制等により吸収し、売上高営業利益率は13.1%とリーマン・ショック前を上回る水準を維持。



□売上高および営業利益は、大幅な円高にもかかわらず、リーマンショック後順調に回復しています。

□リーマンショック直前の2008年第2四半期と比較すると、為替はドル・ユーロ・元いずれに対しても大幅な円高となっており、売上高では及ばないものの、為替の影響を販売価格の改善、固定費の抑制等により吸収し、営業利益率では13.1%とリーマンショック前を上回る水準を維持しています。

- ・建設機械・車両： 中国の減速を、その他戦略市場および伝統市場でカバーし、対前年同期比増収。
- ・産業機械他： コマツ産機、コマツNTCの増収ならびに仮設ハウスの販売増により、対前年同期比増収。

1. 建設機械・車両（地域別：外部顧客向け）

金額単位：億円

		2010年7-9月 (FY10/2Q)	2011年7-9月 (FY11/2Q)	対前年同期比	
				増減	増減率
伝統市場	日本	629	676	+46	+7.3%
	北米	421	617	+196	+46.5%
	欧州	218	292	+73	+33.7%
戦略市場	中南米	498	494	▲3	▲0.7%
	CIS	102	166	+63	+61.6%
	中国	543	388	▲154	▲28.5%
	アジア	610	810	+200	+32.9%
	オセアニア	278	379	+100	+36.2%
	中近東	118	100	▲17	▲15.1%
	アフリカ	162	256	+93	+57.8%
合計		3,584	4,183	+599	+16.7%

2. 産業機械他

	2010年7-9月 (FY10/2Q)	2011年7-9月 (FY11/2Q)	対前年同期比	
			増減	増減率
コマツ産機	64	129	+65	+101.6%
コマツNTC (内、ワイヤーソー)	268 (156)	276 (144)	+8 (▲12)	+3.0% (▲7.7%)
その他	241	353	+112	+46.5%
合計	574	758	+185	+32.3%

6

＜当四半期の建設機械・車両部門の地域別売上高＞

□中国で対前年同期比▲28.5%、▲154億円の減収となりましたが、その他の戦略市場および伝統市場でカバーし、全体では対前年同期比+16.7%、+599億円の増収となりました。

＜当四半期の産業機械他部門の地域別売上高＞

□コマツ産機は、プレス機械の過去受注分の売上が進捗し、対前年同期比+65億円の増収となりました。コマツNTCはワイヤーソーの売上が減ったものの、全体では増収となりました。これらに加えて仮設ハウスの売上増もあり、産業機械他部門の売上は対前年同期比+32.3%、+185億円の増収となりました。

- ・中国の需要減を、その他地域、鉱山機械、部品等でカバーし、対前年同期比増収増益。
- ・建設機械・車両、産業機械他両部門とも利益率が改善し、売上高営業利益率は13.5%と大幅に向上。

□ : 利益率 () : 外部顧客向け売上高

金額単位: 億円

	FY2010/上期 1ドル=88円 1ユーロ=113円 1元=13.0円	FY2011/上期 1ドル=79円 1ユーロ=114円 1元=12.3円	増 減	
売上高	8,597	9,858	+1,261	+14.7%
- 建設機械・車両	(7,636) 7,646	(8,536) 8,564	(+900) +917	(+11.8%) +12.0%
- 産業機械他	(961) 1,015	(1,321) 1,363	(+360) +348	(+37.5%) +34.3%
- 消去	▲64	▲69	▲5	-
セグメント利益	□ 12.2% 1,051	□ 13.5% 1,327	+276	+26.3%
- 建設機械・車両	□ 13.4% 1,023	□ 14.0% 1,201	+178	+17.5%
- 産業機械他	□ 6.0% 61	□ 11.1% 151	+89	+146.6%
- 消去または全社	▲32	▲25	+7	-
その他の営業収益(▲費用)	*1 ▲12	2	+14	-
営業利益	□ 12.1% 1,039	□ 13.5% 1,329	+290	+27.9%
その他の収益(▲費用)	▲38	▲27	+10	-
税引前純利益	1,001	1,302	+301	+30.1%
純利益*2	637	946	+309	+48.5%
1株当たり配当金(円)	18円	21円	+3円	

*1 構造改革費用 ▲22億円を含む

*2 米国財務会計基準審議会会計基準編纂書810による「当社株主に帰属する四半期純利益」

7

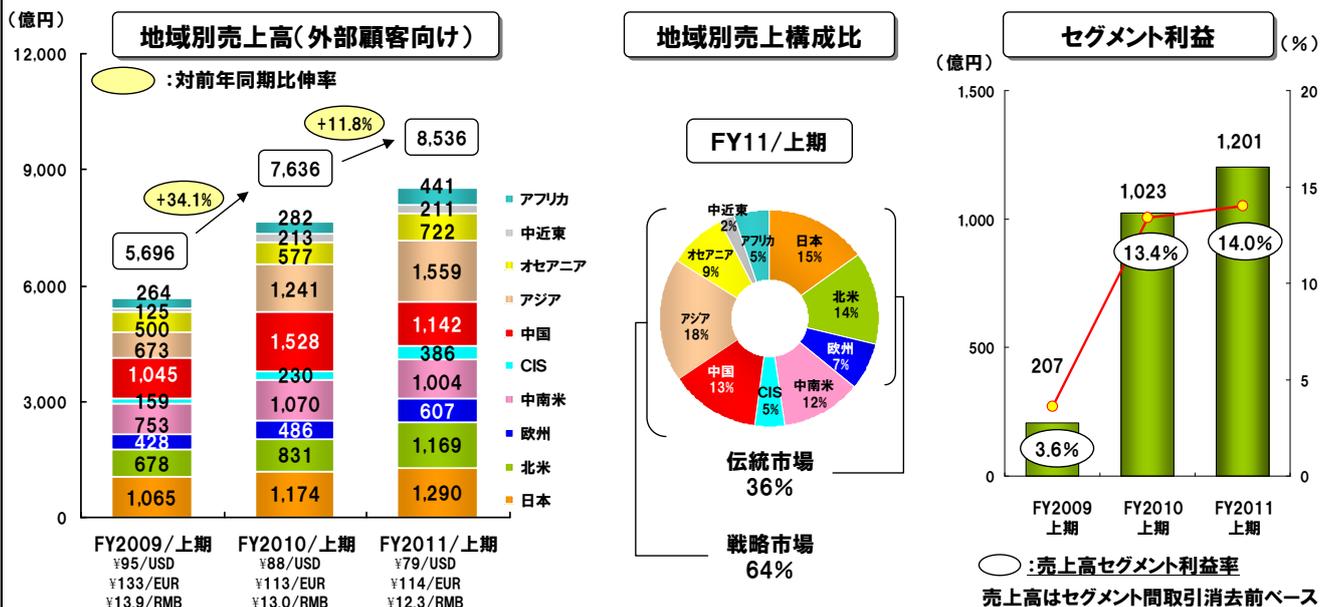
□2011年上期の為替レートは1ドル79円、1元12.3円と、ユーロを除き、前年同期に比べ円高で推移しました。建設機械・車両部門の売上高は為替の影響を約400億円受けたものの、対前年同期比+12.0%の増収、産業機械他部門の売上高も同+34.3%増と大幅な増収となり、連結売上高は対前年同期比+14.7%増の9,858億円となりました。

□建設機械・車両、産業機械他両部門とも利益率が改善し、売上高営業利益率は13.5%と大幅に向上しました。

□当社株主に帰属する当期純利益は946億円となりました。

□期初の予想に対し、売上高で約800億円、営業利益では約100億円届きませんでした。1株当たりの配当は当初の計画通り21円とすることを決議しました。

- ・中国を除く戦略市場、伝統市場の販売増により、対前年同期比+11.8%の増収。
- ・大幅な円高にもかかわらず、売上高セグメント利益率は14.0%に向上。



売上高伸率 (対前年同期比)	%	地域										
		日本	北米	欧州	中南米	CIS	中国	アジア	オセアニア	中近東	アフリカ	合計
FY10上期		+10.2%	+22.5%	+13.4%	+42.1%	+44.7%	+46.1%	+84.4%	+15.4%	+69.3%	+6.7%	+34.1%
FY11上期		+9.9%	+40.7%	+24.9%	▲6.2%	+67.3%	▲25.2%	+25.7%	+25.1%	▲1.1%	+56.5%	+11.8%

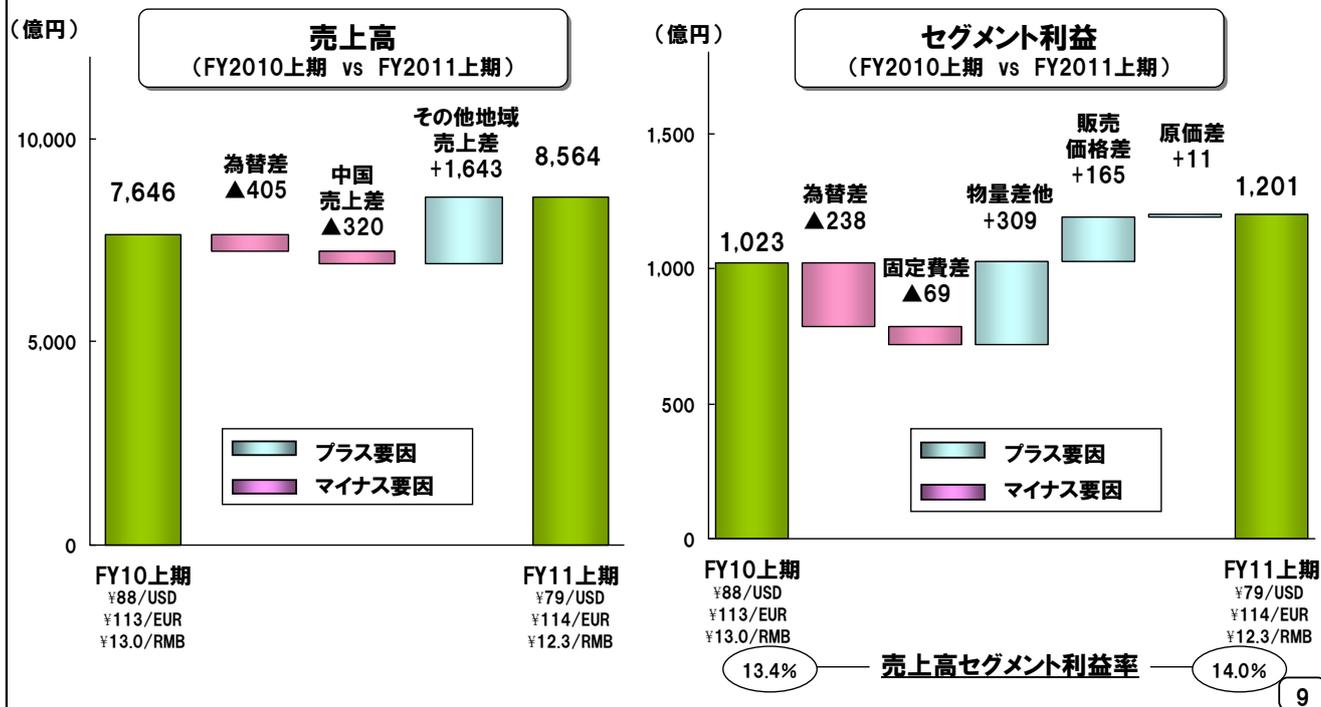
□ 上期の建設機械・車両部門の地域別売上高は、中国が対前年同期比▲25.2%の減となったものの、中国以外の戦略市場および伝統市場の販売増により対前年同期比+11.8%の増収となりました。

□ セグメント利益率は前年同期より0.6ポイント改善し、14.0%となりました。

＜建設機械・車両＞ 売上高・セグメント利益の増減要因(上期)

売上高: 円高及び中国市場減速によるマイナスをその他地域、鉱山機械、部品等でカバーし、+917億円の増収。

セグメント利益: 円高および固定増によるマイナスを物量差他でカバー。加えて販売価格の改善、原価低減等の努力により、+178億円の増益。



□建設機械・車両部門の売上高ならびにセグメント利益について、当期と前年上期を比較し増減要因を示しています。

＜売上高＞

□前年上期に対し、円高の影響で▲405億円のマイナス、中国の需要減速の影響で▲320億円のマイナスとなりました。

□一方、その他の地域、鉱山機械、部品等の売上増により1,643億円プラスとなり、今上期の売上高は対前年同期比+917億円増の8,564億円となりました。

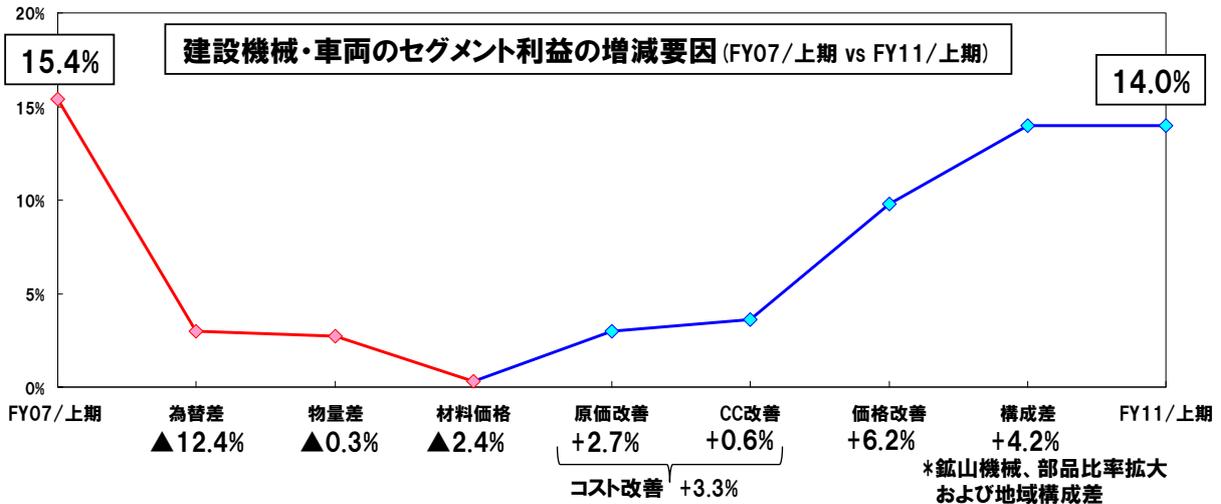
＜セグメント利益＞

□前年上期に対し、マイナス要因として円高の影響が▲238億円、海外・日本での人件費増など固定費増がほぼ計画通り▲69億円ありました。

□プラス要因としては、物量増の効果が+309億円あった上、販売価格の改善が計画を上回るペースで進んだことで+165億円、製造原価も改善し+11億円となりました。

□この結果、今上期のセグメント利益は+178億円の増益となりました。

大幅な円高の影響を、販売価格の改善、コスト改善等の努力と収益性の高い鉱山機械、部品等の販売構成比の増加によりカバーし、高い利益率を維持。



<為替の変化>

FY07/上期	FY11/上期	差
¥119/USD	¥79/USD	▲40円
¥163/EUR	¥114/EUR	▲49円
¥15.7/RMB	¥12.3/RMB	▲3.4円

<減益要因>
 ・大幅な円高の進行
 ・材料価格の上昇

<対応状況>
 ・販売価格の改善・コスト改善の継続
 ・構造改革、固定費削減
 ・高成長・高収益分野へのシフト/比重拡大
 ・部品/リマン生産能力向上

リーマンショック前の利益率を維持

□建設機械・車両部門のセグメント利益率について、今上期と過去のピークであった2007年上期を比較し、増減要因を示しています。

<マイナス要因>

□2007年上期のセグメント利益率は15.4%でしたが、その後の円高によりマイナス12.4ポイント、物量はほぼ同じですがマイナス0.3ポイント、材料価格のアップによりマイナス2.4ポイントの影響があり、合計すると利益はほぼゼロとなってしまいます。

<プラス要因>

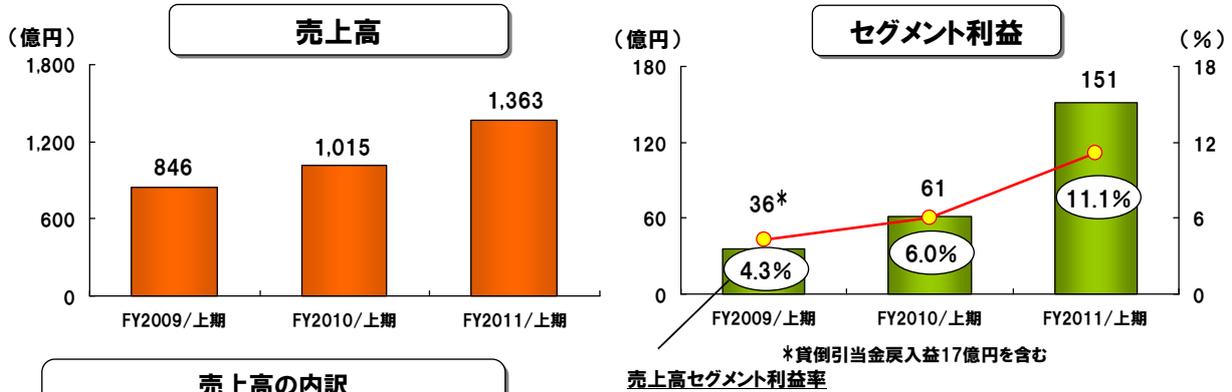
□一方、製造原価低減活動や、構造改革も含めた固定費改善などコスト改善効果で+3.3ポイント、販売価格の改善(値上げ)により+6.2ポイント利益率を改善しました。また利益率の高い鉱山機械・部品の比率が高まったことによる効果が+4.2ポイントありました。

□以上のプラス要因により当上期のセグメント利益率は14.0%と、リーマンショック前の2007年に迫る利益率を維持しています。

□今後も同様の努力により、収益性を高めていきます。

＜産業機械他＞ 売上高とセグメント利益

- ・コマツ産機、コマツNTCとも増収。加えて仮設ハウスの販売増により、対前年同期比+348億円の増収。
- ・セグメント利益は2.5倍となり、セグメント利益率も+5.1ポイント改善し11.1%。



売上高の内訳
(FY2010/上期 vs. FY2011/上期)

金額単位: 億円

	FY10/上期	FY11/上期	増減
コマツ産機	148	196	+48
コマツNTC (内、ワイヤーソー)	511 (278)	686 (392)	+175 (+114)
その他	356	481	+125
合計	1,015	1,363	+348

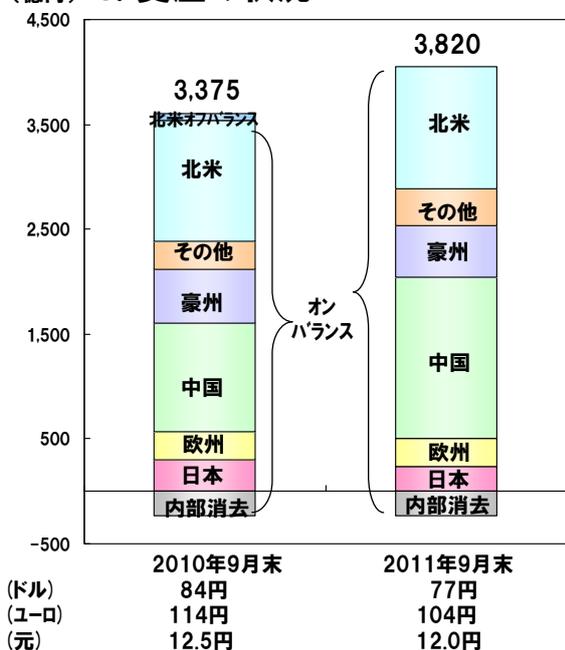
□産業機械他部門の業績は、コマツNTCのワイヤーソーが大きく売上を伸ばしたことに加え、仮設ハウスの販売増も寄与し、全体で前年同期比30%以上の増収になりました。

□利益率の高いワイヤーソーが大きく伸びたことで、セグメント利益率は11.1%になりました。

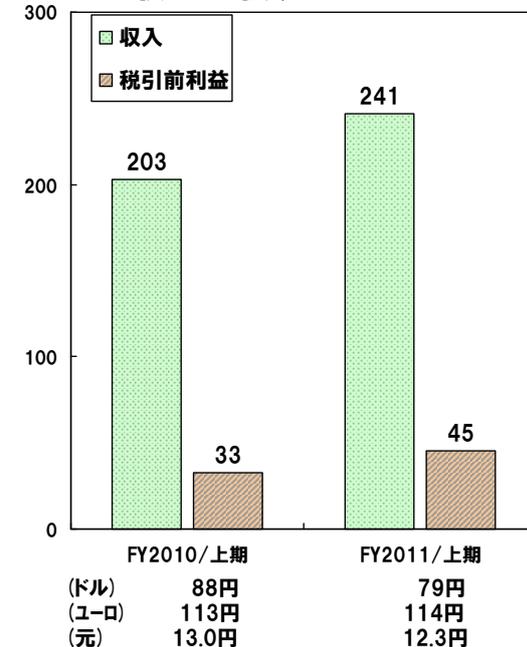
・引き続き戦略市場で資産を拡大。対前年同期比増収増益。

リテールファイナンス子会社の状況（社内管理ベース）

1. 資産の状況



2. 収益の状況



□リテールファイナンス事業の2011年9月末総資産は3,820億円となりました。円高のマイナスはありましたが、中国で1年前に比べ約+45億元増加したことなどにより、全体で前年同月末に比べ+445億円増加となりました。

□収益性の面でも大きな問題はなく、前年同期に対し増収増益となりました。

連結貸借対照表

- ・総資産はほぼ前期末並みの約2兆1,500億円。
- ・リテールファイナンス会社を除いたネットD/Eレシオも前期末の水準を維持。

ネットD/Eレシオ 金額単位:億円	2011.3.31 1ドル=83円 1ユーロ=118円 1元=12.7円	2011.9.30 1ドル=77円 1ユーロ=104円 1元=12.0円	増減
現金・預金(含む定期預金) [a]	849	862	+ 13
受取手形・売掛金(含む長期売上債権) <除くリテールファイナンス会社>	7,160 <4,193>	6,673 <3,528>	▲486 <▲665>
棚卸資産	4,738	5,228	+ 489
有形固定資産	5,083	5,081	▲2
その他資産	3,658	3,605	▲53
資産合計	21,491	21,451	▲39
支払手形・買掛金	3,089	2,812	▲276
借入金・社債 [b] <除くリテールファイナンス会社>	5,440 <2,769>	5,730 <2,866>	+ 289 <+ 97>
その他の負債	3,234	3,130	▲104
負債合計	11,764	11,672	▲91
(株主資本比率)	(43.0%)	(43.8%)	(+0.8ポイント)
株主資本	9,238	9,388	+ 149
非支配持分	488	390	▲97
負債及び純資産合計	21,491	21,451	▲39
ネットベースの借入金・社債 [b-a]	0.50 4,591	0.52 4,867	+ 276
ネットD/Eレシオ (リテールファイナンス会社を除いた場合)	0.24	0.24	

□2011年9月末の総資産は、3月末に比べ39億円減少し、2兆1,451億円となりました。

□売上債権は、中国において春節後に債権回収が進んだことにより、大きく減少しました。

□棚卸資産の増加は、鉱山機械等の活況に対応するため、工場や代理店が在庫を積み増していることが主な要因です。

□借入金・社債は+289億円の増加となりました。ネットD/Eレシオはファイナンスを除き0.24で、中期計画の目標値に向かって順調に推移しています。

2. 2012年3月期の業績見通し

2012年3月期(2011年度)の業績見通し(概要)

1. 売上げ・損益: 前期実績に対し、売上高は+11.2%の増収、営業利益は+26.5%の増益、売上高営業利益率は1.7ポイント改善し、13.8%となる見通し。
 ・中国における建設機械の需要減を他地域、鉱山機械、部品の増でカバーし、販売量は期初予想に達する見通したが、為替の大幅な円高により、売上高・利益は期初予想を下回る見通し。

	FY2010 (実績)	FY2011 (最新見通し)	対前期比	(参考) FY2011 (期初予想)
連結売上高	18,431億円	20,500億円	+11.2%	21,500億円
営業利益	2,229億円	2,820億円	+26.5%	3,050億円
売上高営業利益率	12.1%	13.8%	+1.7ポイント	14.2%
純利益*	1,507億円	1,860億円	+23.4%	2,000億円
ROE	17.2%	19.6%	+2.4ポイント	20.0%
ネットD/Eレシオ (リテールファイナンス会社を除いた場合)	0.50 (0.24)	0.52 (0.24)	+0.02ポイント (-)	0.48 (0.22)

* 米国財務会計基準審議会会計基準編纂書810による「当社株主に帰属する当期純利益」

(参考) 売上高、利益の米ドル、ユーロ換算値*

2. 各セグメントの状況

- 建設機械・車両: 中国の需要減をそれ以外の地域、鉱山機械、部品の増でカバー。大幅な円高の影響で、期初予想は下回るものの、対前期比では、売上高は+11.2%増収、セグメント利益は+22.7%増益、セグメント利益率は15.1%に改善の見通し。
- 産業機械他: ワイヤソーの販売減を、プレス機械、工作機械、仮設ハウス等の販売増でカバーし、売上高は対前期比+9.1%増収の見通し。

(百万米ドル)	FY2010 (実績)	FY2011 (最新見通し)	対前期比
連結売上高	22,206	26,623	+19.8%
営業利益	2,686	3,662	+36.3%
純利益	1,816	2,416	+33.0%

(百万ユーロ)	FY2010 (実績)	FY2011 (最新見通し)	対前期比
連結売上高	15,620	19,340	+23.8%
営業利益	1,889	2,660	+40.8%
純利益	1,278	1,755	+37.3%

*FY2010は期末時点の為替レート、FY2011の最新見通しは、下期見通しレートを使用して換算。

3. 配当金 1株当たり配当金は、42円を見込む。(配当性向は22%)

4. 自己株式の取得・消却 資本効率の向上と株主への利益還元を図るため、16,000,000株または300億円を上限とする自己株式の取得を実施し、全数を消却する。

- 2011年の連結売上高は、期初予想には1,000億円及ばないものの、対前年比+11%増収の2兆500億円となる見通しです。
- 営業利益は期初予想に230億円及ばないものの、対前年比+26.5%増益の2,820億円となる見通しです。
- 売上高営業利益率は13.8%と、前年に比べ1.7ポイント改善する見通しです。
- 売上高および営業利益の見通しを修正する主な要因は大幅な円高です。
- 建設機械・車両部門では、中国の需要減をその他の地域や鉱山機械、部品等でカバーし、売上高は対前期比+11.2%の増収、セグメント利益は同+22.7%増益となり、セグメント利益率は15.1%に改善する見通しです。
- 産業機械他部門では、ワイヤソーの販売減の影響を受けて売上高、セグメント利益ともに期初予想を下回るものの、プレス機械、工作機械、仮設ハウス等の販売増により前期に対し増収となる見通しです。
- 配当は期初予想と同じく、1株当たり42円を予定しています。
- 既に発表のとおり、資本効率の向上と株主利益還元を目的とした自己株式の取得と全数消却を決議しました。

2012年3月期の業績見通し

- ・売上高は対前期比+11.2%増収、営業利益は+26.5%増益。売上高営業利益率は13.8%に改善の見通し。
- ・建設機械・車両の売上高セグメント利益率は前期より更に改善し、15%を超える見通し。

% 利益率 ():外部顧客向け売上高 < >:下期為替レート(見通し)

金額単位:億円

	FY10実績 1ドル=85円 1ユーロ=113円 1元=12.7円	FY11予想(期初) 1ドル=82円 1ユーロ=116円 1元=12.7円	FY11見通し(最新) 1ドル=78円 <77円> 1ユーロ=110円 <106円> 1元=12.2円 <12.1円>	対前期比増減	
売上高	18,431	21,500	20,500	+2,068	+11.2%
- 建設機械・車両	(16,156) 16,180	(18,680) 18,700	(17,980) 18,000	(+1,823) +1,819	(+11.3%) +11.2%
- 産業機械他	(2,274) 2,383	(2,820) 2,900	(2,520) 2,600	(+245) +216	(+10.8%) +9.1%
- 消去	▲133	▲100	▲100	+33	-
セグメント利益	12.7% 2,349	14.4% 3,100	14.0% 2,860	+510	+21.7%
- 建設機械・車両	13.6% 2,208	15.5% 2,890	15.1% 2,710	+501	+22.7%
- 産業機械他	8.8% 209	10.3% 300	7.7% 200	▲9	▲4.6%
- 消去または全社	▲68	▲90	▲50	+18	-
その他の営業収益(▲費用)	*1 ▲120	▲50	▲40	+80	-
営業利益	12.1% 2,229	14.2% 3,050	13.8% 2,820	+590	+26.5%
その他の収益(▲費用)	▲31	▲50	▲60	▲28	-
税引前純利益	2,198	3,000	2,760	+561	+25.6%
純利益 *2	1,507	2,000	1,860	+352	+23.4%
1株当たり配当金(円)	38円	42円	42円	+4円	

*1 構造改革費用▲38億円を含む

*2 米国財務会計基準審議会会計基準編纂書810の適用による「当社株主に帰属する当期純利益」

16

□下期の為替レートは1ドル77円、1ユーロ106円、1元12.1円を見込んでおり、年間ではそれぞれ78円、110円、12.2円となる見通しです。

□建設機械・車両部門の2011年度売上高は、対前期比+1,819億円増収(+11.2%)の1兆8,000億円となる見通しです。セグメント利益は2,710億円となり、利益率15%を確保する見通しです。

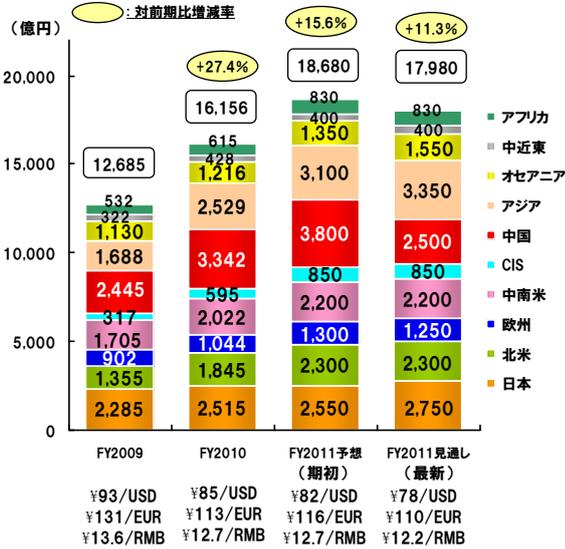
□産業機械他部門の2011年度売上高は、対前期比+216億円増収(+9.1%)の2,600億円、セグメント利益は200億円となり、セグメント利益率は7.7%となる見通しです。

□営業利益は、対前期比+26.5%増益の2,820億円となる見通しです。

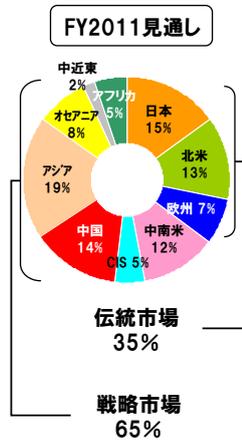
3. 建設機械・車両部門の事業環境と見通し

- ・中国の需要減を他地域及び鉱山機械、部品の増等でカバーし、外部顧客向け売上高は対前期比+11.3%増収、セグメント利益は+22.7%増益、売上高セグメント利益率は15%を超える見通し。
- ・販売量は期初予想の水準に達するものの、大幅な円高により、売上高・セグメント利益は期初予想を下回る見通し。

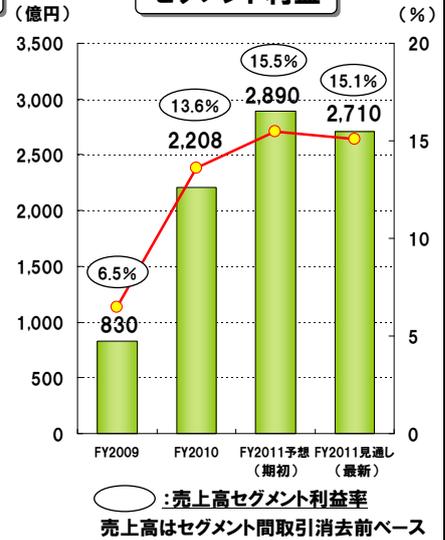
地域別売上高(外部顧客向け)



地域別売上構成比



セグメント利益



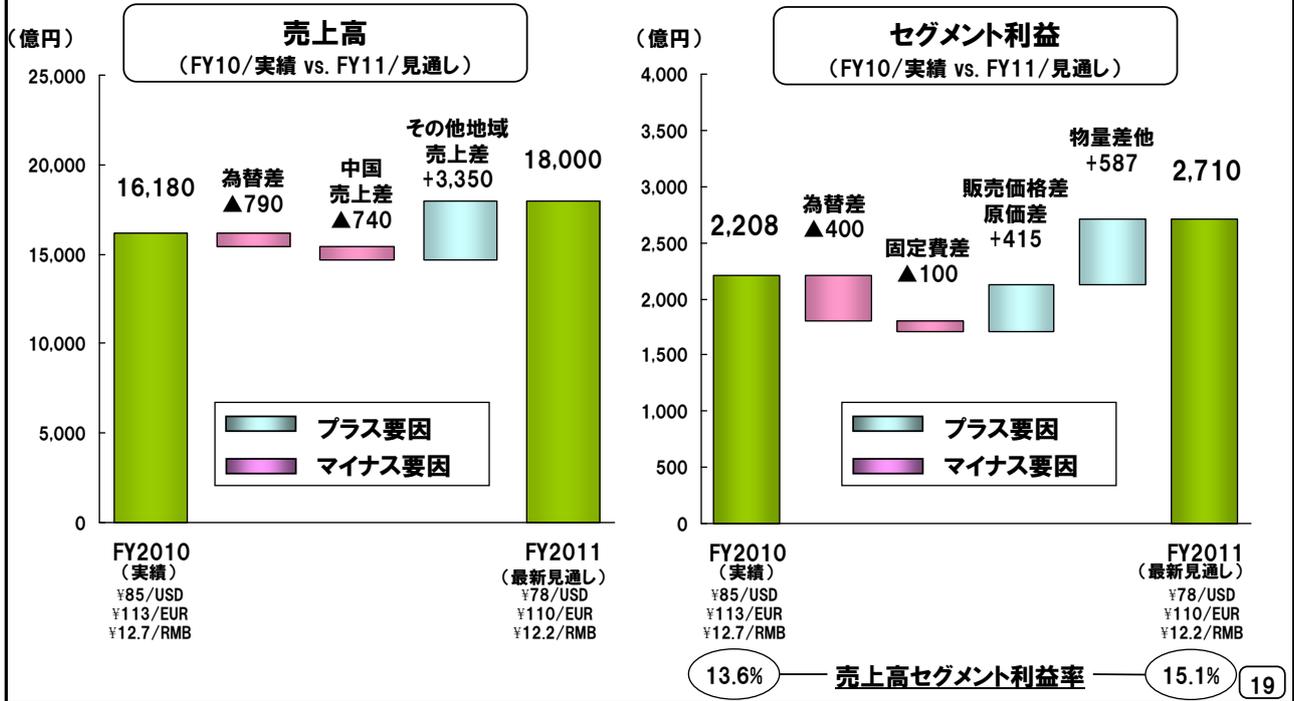
売上高伸率(前期比)

%	日本	北米	欧州	中南米	CIS	中国	アジア	オセアニア	中近東	アフリカ	合計
FY10実績	+10.1%	+36.2%	+15.7%	+18.5%	+87.6%	+36.7%	+49.8%	+7.6%	+33.1%	+15.6%	+27.4%
FY11最新見通し	+9.3%	+24.6%	+19.7%	+8.8%	+42.7%	▲25.2%	+32.4%	+27.5%	▲6.7%	+34.8%	+11.3%

- 2012年3月期の外部顧客向け売上高は対前期比+11.3%増収の17,980億円となる見通しです。
- 中国の売上高は対前期比▲842億円(約▲25%)減の2,500億円となる見通しですが、他の地域はほぼすべて対前期比プラスで、北米、欧州、アジア、オセアニア、CIS、アフリカ等が堅調に推移する見通しです。
- 中国の売上構成比が前期の21%から14%に下がる一方、伝統市場が占める比率が前期の33%から35%に拡大する見通しです。
- セグメント利益率は円高の環境にもかかわらず、対前期比1.5%プラスの15.1%に改善する見通しです。
- 販売量は期初予想の水準に達するものの、大幅な円高により、売上高・セグメント利益は期初予想を下回る見通しです。

＜建設機械・車両＞ 売上高・セグメント利益の増減要因(対10年実績比)

- ・売上高：円高によるマイナスおよび中国の需要減を他地域、鉱山機械、部品の増等でカバーし、+1,819億円増収の見通し。
- ・セグメント利益：円高及び固定費増によるマイナスを、販売価格改善、原価低減および物量増でカバーし、+501億円増益の見通し。



□建設機械・車両部門の売上高ならびにセグメント利益について、2010年度実績と本年度見通しの増減要因を示しています。

＜売上高＞

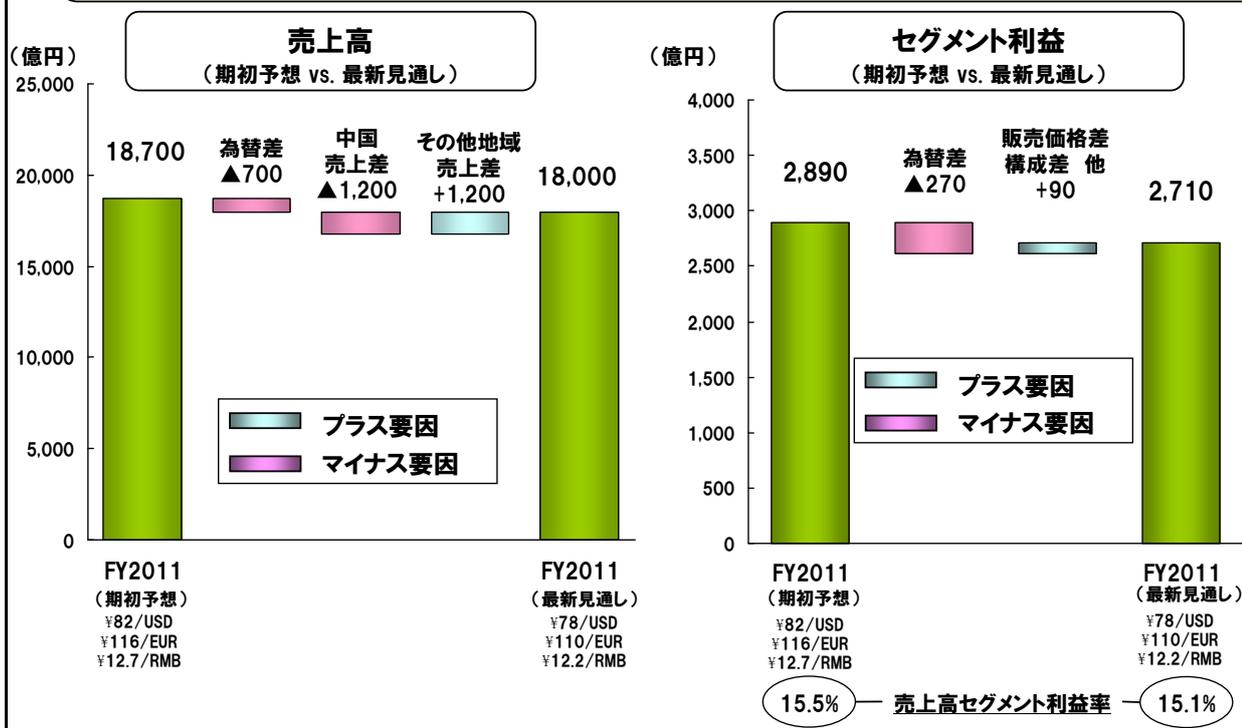
□2010年度の実績に対し、円高の影響で▲790億円、中国の需要減の影響で▲740億円それぞれマイナスになりますが、その他地域や、鉱山機械、部品の数量増によってカバーし、合計では約+1,820億円増収の18,000億円となる見通しです。

＜セグメント利益＞

□セグメント利益は、2010年度実績に対し円高の影響が▲400億円、固定費の増加が▲100億円それぞれマイナスとなりますが、継続的な値上げや原価低減等により+415億円、物量等が+587億円プラスとなることで約+500億円増益の2,710億円となり、利益率も15.1%に改善する見通しです。

＜建設機械・車両＞ 売上高・セグメント利益の増減要因(対期初予想比)

- ・売上高：中国の需要減は他地域、鉱山機械、部品の増等でカバーするものの、大幅な円高により期初予想を▲700億円下回る見通し。
- ・セグメント利益：円高によるマイナスを、販売価格の改善、原価低減等でカバーするものの、期初予想を▲180億円下回る見通し。



□建設機械・車両部門の売上高ならびにセグメント利益について、期初予想と最新見通しの増減要因を示しています。

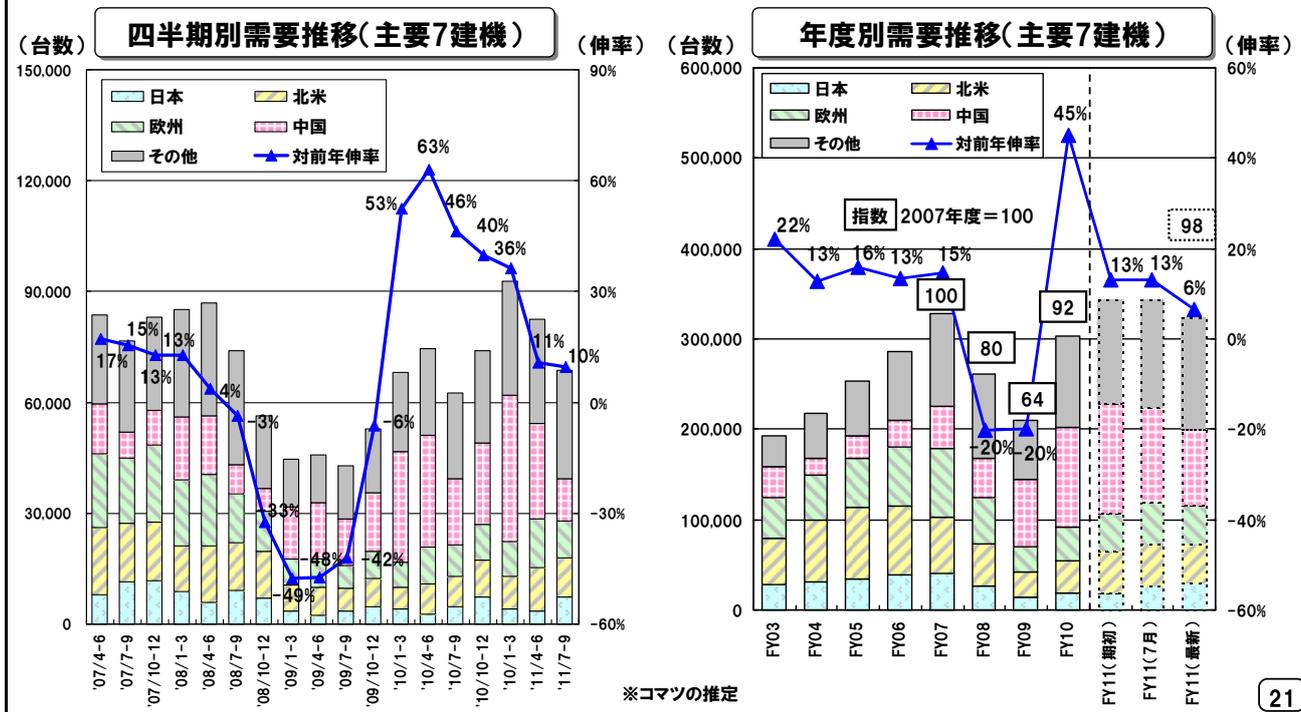
＜売上高＞

□中国の需要減少分をその他地域、鉱山機械、部品の売上増でカバーするものの、期初の予想に対しては、為替差に相当する700億円下回る見通しです。

＜セグメント利益＞

□セグメント利益は、円高の影響▲270億円を販売価格の改善および原価改善等でカバーするものの、期初の予想を180億円下回る見通しです。

(2Q実績) 中国市場の減速を、その他の戦略市場と伝統市場が補い、対前年同期比+10%の増加。
 (通期見通し) 期初見通しに比べ中国の需要は減少するものの、対前期比では+6%の増加を見込む



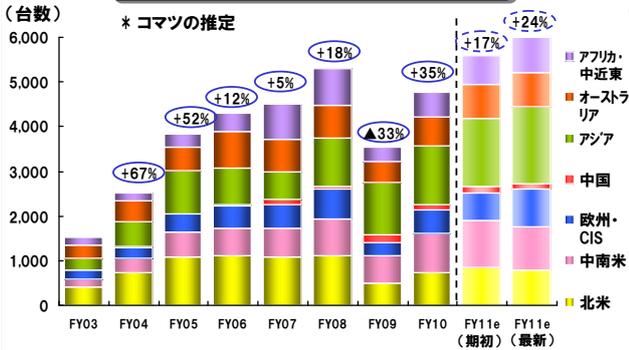
□主要7建機の需要台数推移です。当第2四半期(2011年7~9月)は中国の需要が減少したものの、その他の戦略市場および伝統市場でカバーし、前年同期比+10%増となりました。

□通期の需要は、中国では期初見通しを下回るものの、世界全体では対前期比+6%増加し、2007年のピークにはほぼ並ぶ32万台強まで回復する見込みです。

鉱山機械事業の見通し

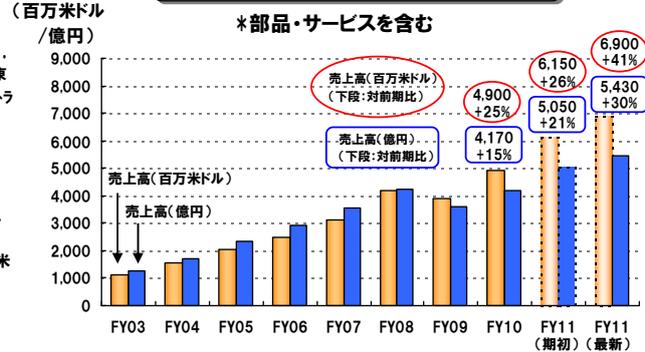
- ・鉱山機械の需要は、アジアを中心に堅調に推移し、対前期比+24%の見通し。
- ・受注残も引き続き堅調に推移しており、売上高は対前期比+30%(円ベース)の見通し。

地域別需要推移(台数ベース)

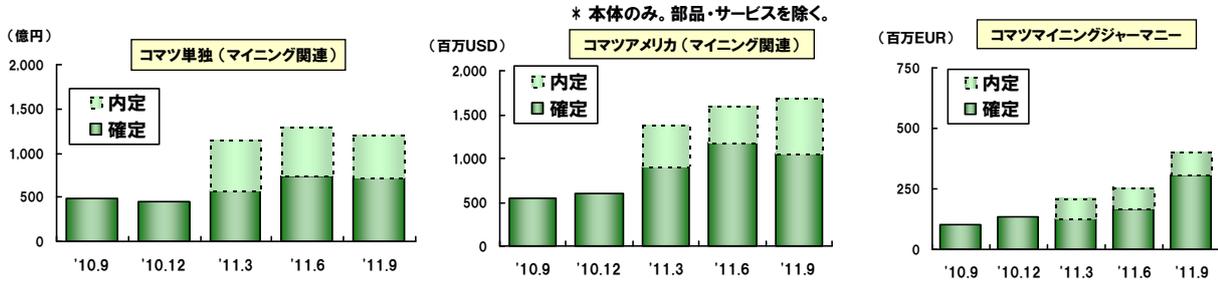


・ダンプトラック:75t (HD785) 以上
 ・エクスキャベータ:150t (PC1600) 以上
 ・モータローダ:280HP (GD825) 以上
 ・ブルドーザ:525HP (D375) 以上
 ・ホイールローダ:500HP (WA700) 以上

鉱山機械事業の売上高推移



鉱山機械の受注残の状況

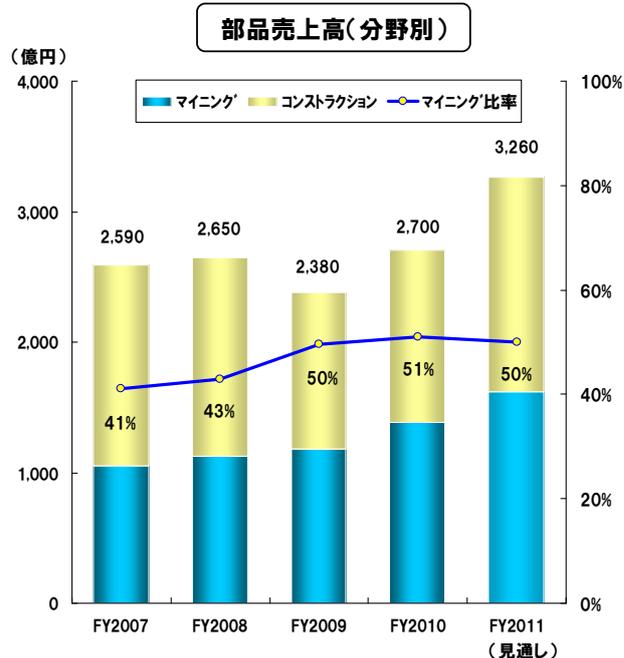
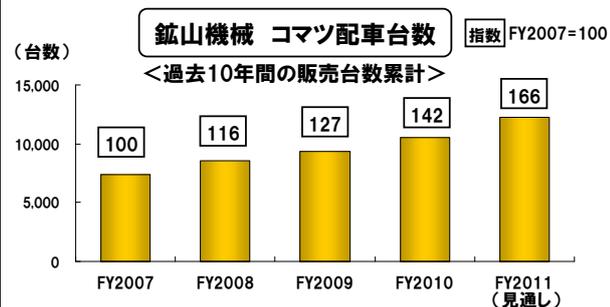
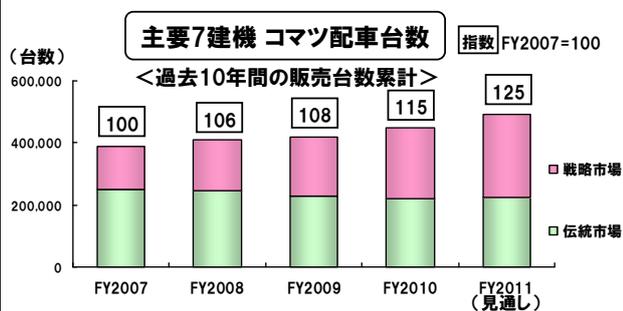


□ 鉱山機械の需要は対前期比+24%増の見通しです。

□ 部品・サービスを含む鉱山機械事業の売上は、円ベースでは期初計画比+30%増の5,430億円、ドルベースでは+41%増となる見通しです。

□ 鉱山機械は引き続き高いレベルの受注残を保有しており、既に2013年の商談が始まっている商品もあります。

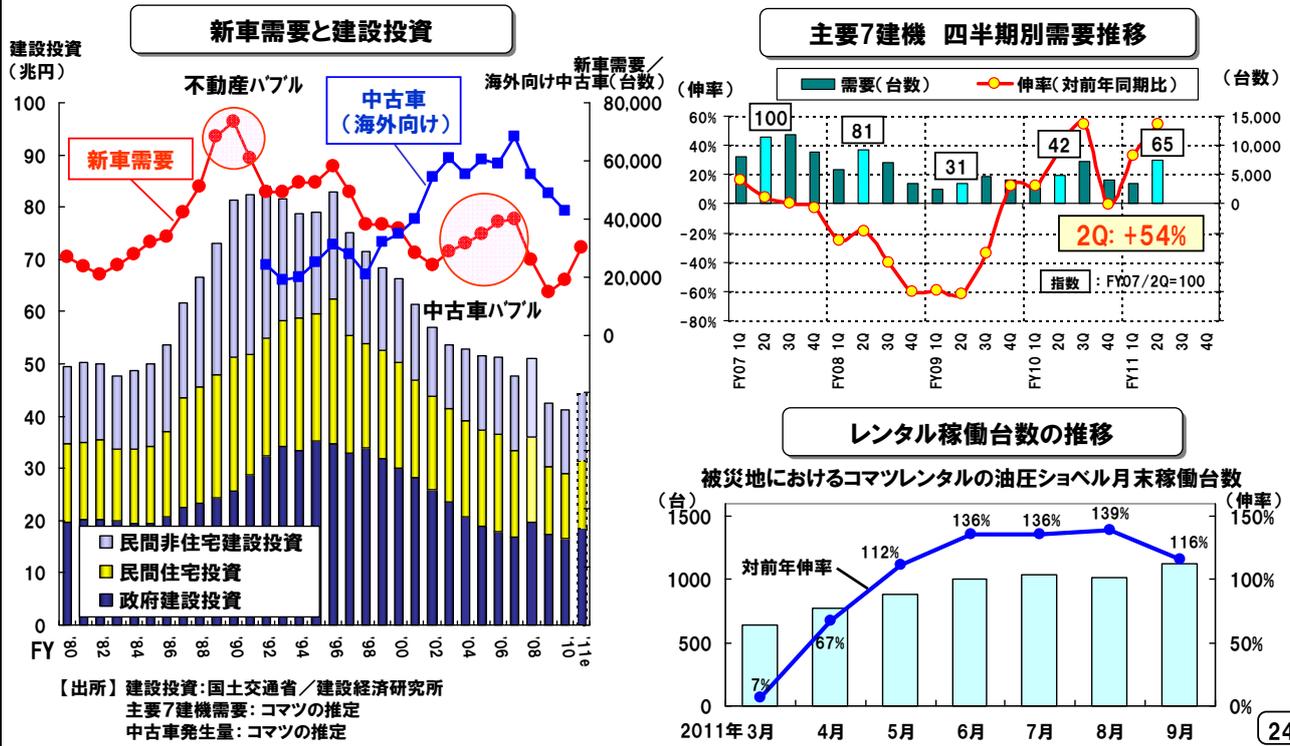
- ・戦略市場での配車台数増加による需要増を確実に取り込み、部品売上げは増収の見通し。
- ・今後も配車台数の増加が見込まれ、部品事業は安定的に成長する見通し。



□部品需要のベースとなる主要7建機および鉱山機械の配車台数(過去10年間の累計販売台数)は堅調に増加しています。

□2011年の部品売上高は対前期比+21%増の3,260億円となる見通しです。ドルベースでは2007年に対し+63%増、対前期比+30%増と着実に成長しています。

- ・第2四半期の需要は、震災復興のためのレンタル向け需要を中心に、対前年同期比+54%。
- ・通期の需要は、対前期比約+60%の見通し。

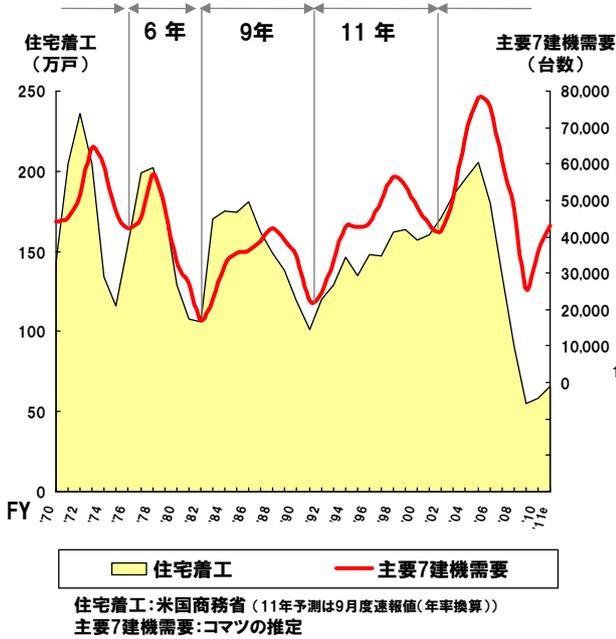


□日本の需要は、期初計画では震災後の復興需要を織り込まず前年並みと見込んでいましたが、レンタル向けを中心に需要が強まっていることで、第2四半期は対前年同期比+54%増となりました。通期見通しも対前期比+60%増となる見通しです。

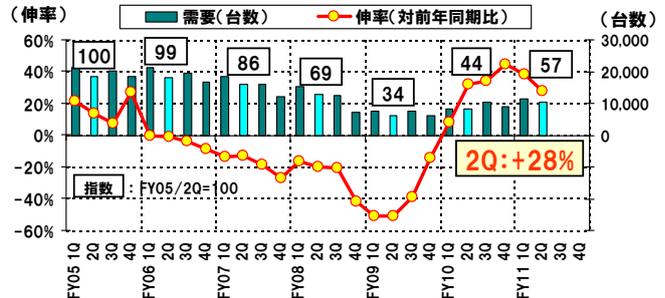
□震災の復旧・復興需要により、当面、国内需要は強いと見えています。

- ・第2四半期の需要は、レンタルならびに鉱山・エネルギー向けの需要が堅調に推移し、対前年同期比+28%。直近のピークである2005年度比で、約6割の水準。
- ・通期の需要は、対前期比約+25%の見通し。

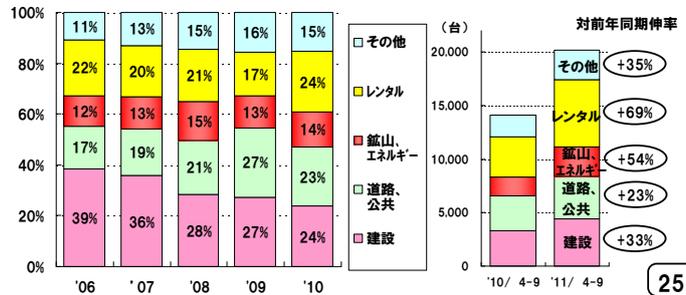
主要7建機需要と米国住宅着工件数



主要7建機 四半期需要推移



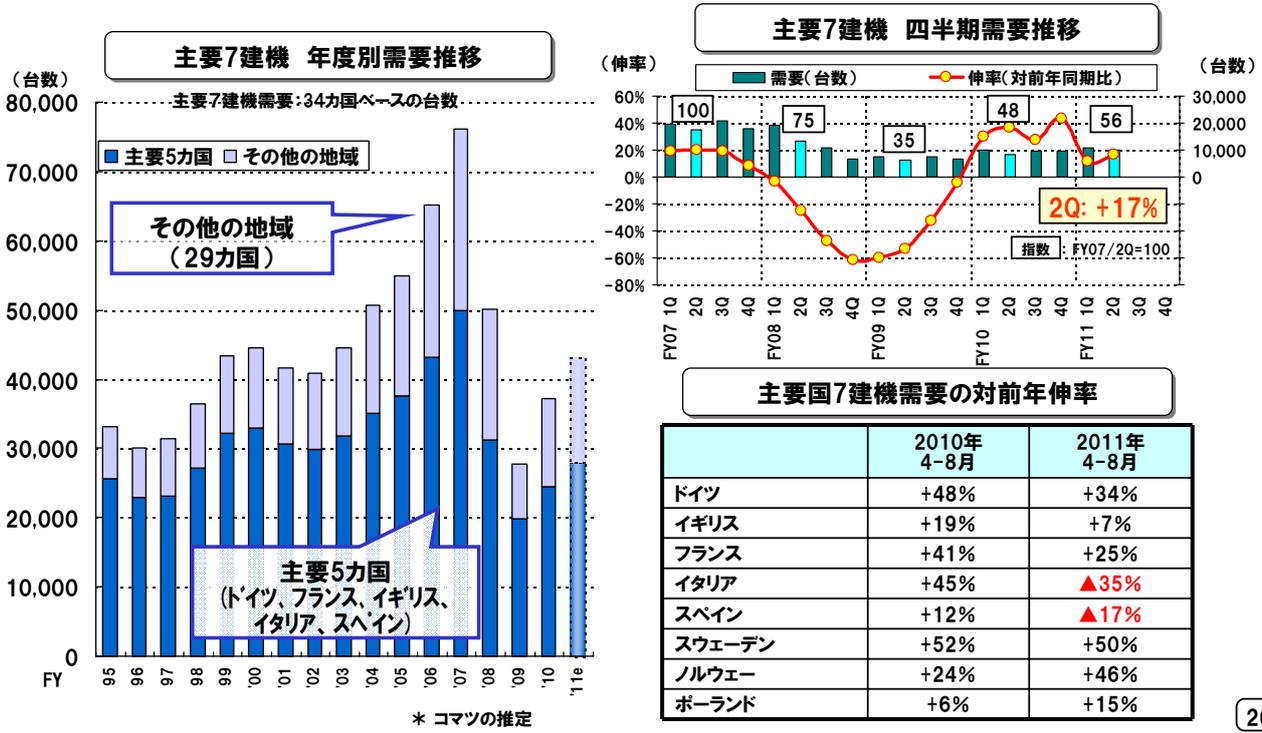
セグメント別需要構成比(台数ベース)



□北米では、引き続きレンタルユーザーの買い換えや鉱山・エネルギー関連の需要が堅調に推移し、当第2四半期は対前年同期比+28%増となりました。通期需要は対前期比+25%増と見えています。

□米国の需要は昨年から回復基調に入りましたが、まだピークの6割に達しておらず回復の余地が十分あります。ただし今後の強い回復には、住宅着工の回復が必要です。

- ・第2四半期の需要は、ドイツ、フランスに加え、北欧が堅調に推移し、対前年同期比+17%。直近のピークである2007年度比で約6割の水準。
- ・通期の需要は、対前期比約+15%の見通し。

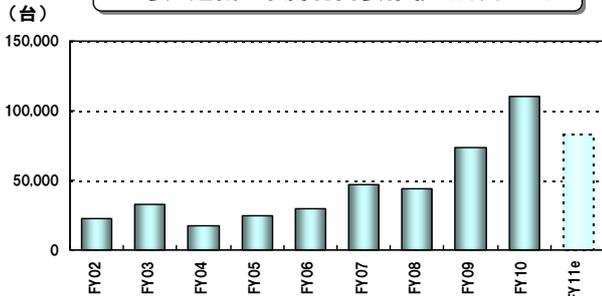


□ 欧州の建機需要はドイツ、フランス、北欧などで堅調に推移し、第1四半期が対前年同期比+32%増、第2四半期が同+17%増でした。

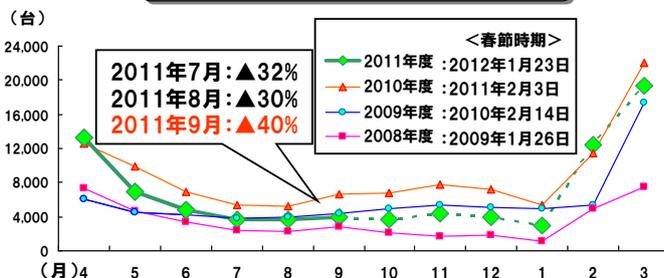
□ 欧州ではレンタル向けが堅調なことに加え、今後ドイツ、ポーランド等で建設投資が予測されることから引き続き緩やかな回復が見込まれ、通期で対前期比+15%増と見えています。

・政府の金融引締策の影響で、中国の需要(外資メーカ合計)は、5月以降、対前年同月比マイナスが続いており、第2四半期の需要は対前年同期比▲36%。
 ・通期の需要は、対前期比約▲25%の見通し。

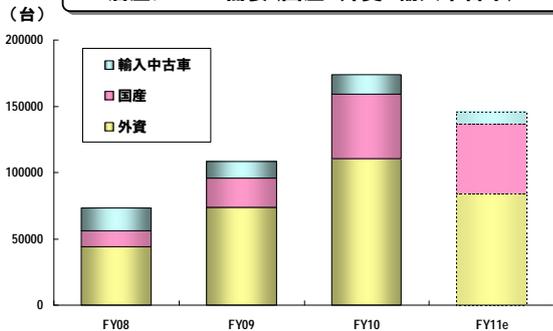
主要7建機 年度別需要推移 (外資メーカ)



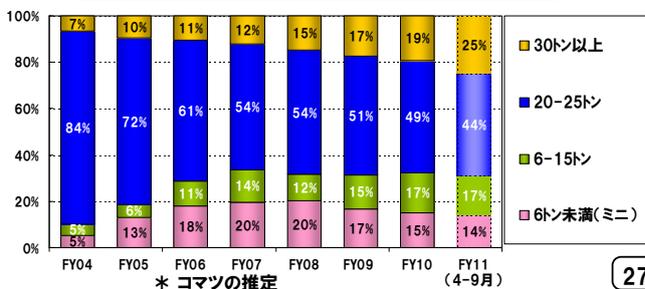
油圧ショベルの月別需要推移 (外資メーカ:6トン以上の合計)



油圧ショベル需要 (国産+外資+輸入中古車)



油圧ショベルのクラス別需要構成比 (外資メーカ:ミニ含む)

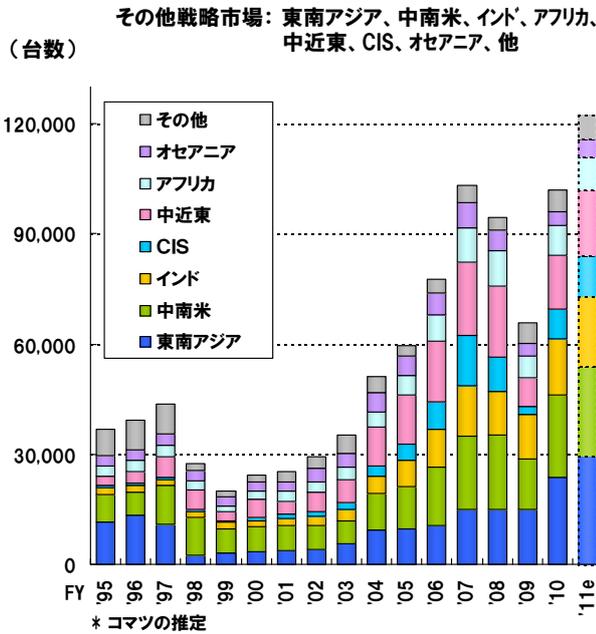


□中央政府の金融引締め政策の影響で、第2四半期の需要は対前年同期比▲36%の減少となりました。今後も当面変化はなく、2012年1月までは前年同期に対し40%以上のマイナスで推移する見通しです。

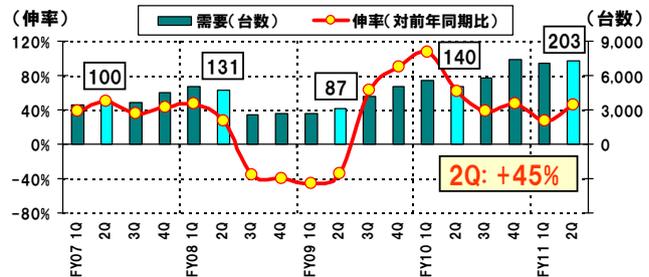
□消費者物価指数が高止まりしており、春節明けも前期比マイナスの傾向が続くことが予想され、通期の需要は対前期比で約▲25%減となる見通しです。

- ・第2四半期の需要は、好調な東南アジアをはじめとして、各地域とも堅調に推移し、対前年同期比+27%。
- ・通期の需要は、対前期比約+20%の見通し。

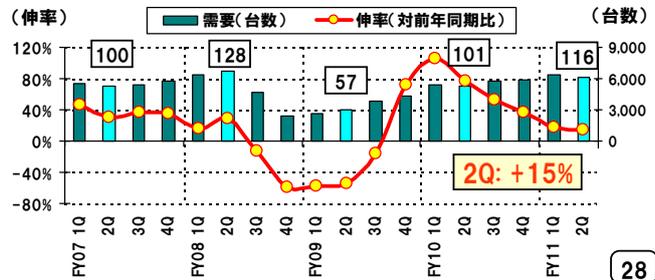
主要7建機の需要推移



東南アジア 主要7建機 四半期別需要推移



中南米 主要7建機 四半期別需要推移



□その他の戦略市場は引き続き堅調です。

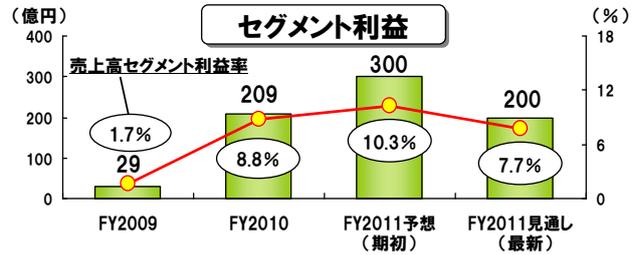
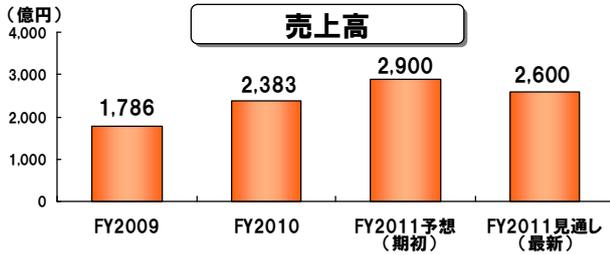
□東南アジアでは、インドネシアの鉱山機械をはじめ、資源、インフラ関連を中心に期初予想を上回る需要が続いています。

□チリをはじめ鉱山機械需要の高い中南米や、CIS、オーストラリア、南アフリカなどで資源・エネルギー関連の需要が堅調であることから、戦略市場全体の通期の需要は、対前期比約+20%増となる見通しです。

4. 産業機械他部門の事業環境と見通し

＜産業機械他＞ 売上高とセグメント利益の見通し

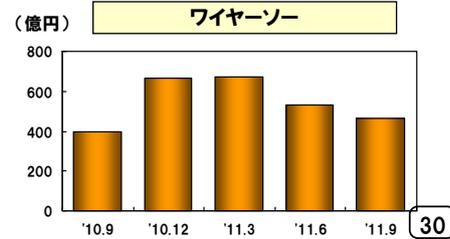
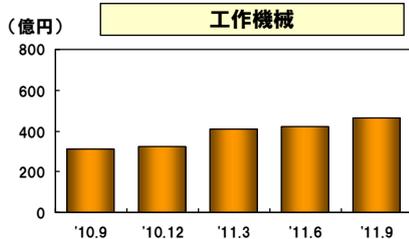
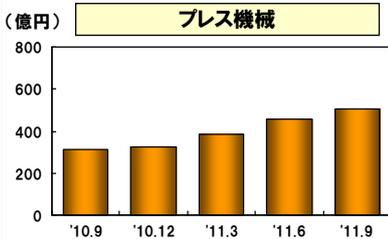
・ワイヤーソーの販売減を、プレス機械、工作機械、仮設ハウス等の販売増でカバーし、対前期比増収の見通し。
 ・プレス機械、工作機械の受注は引き続き堅調に推移。



売上高の内訳 (FY2010 vs. FY2011見通し)

金額単位: 億円	FY10実績	FY11見通し (最新)	対前期比
コマツ産機	322	461	+139
コマツNTC (内ワイヤーソー)	1,291 (830)	1,224 (550)	▲67 (▲280)
その他	770	915	+145
合計	2,383	2,600	+216

受注残の状況



□ワイヤーソーの売上は第2四半期以降、中国の金融引締めの影響などにより落ち込みましたが、プレス機械、工作機械、仮設ハウスなどの売上増でカバーし、対前期比+220億円の増収となる見通しです。

□ワイヤーソーの受注回復は2012年以降と見ていますが、プレス機械、工作機械の受注は徐々に増加しており、堅調に推移しています。

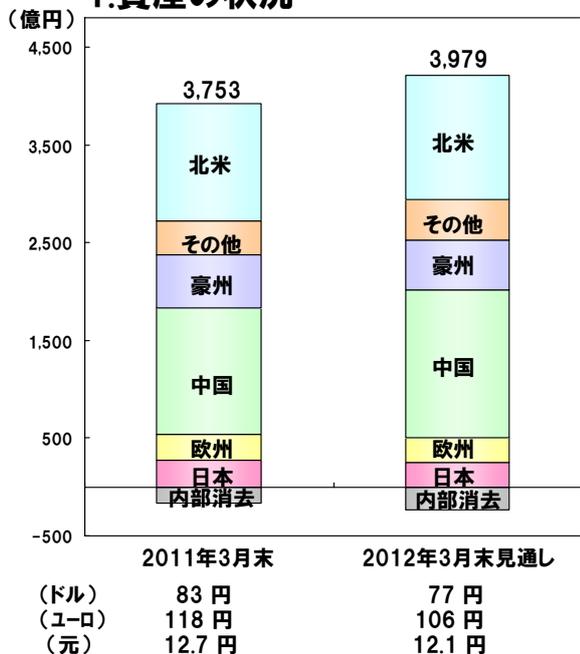
5. リテールファイナンス

設備投資・減価償却費、研究開発費、固定費

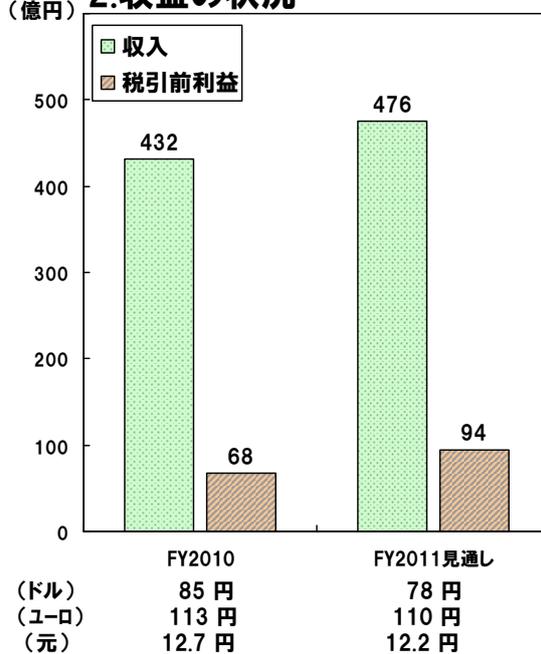
・戦略市場に加え、北米の資産が増加する見通し。対前期比で増収増益となる見通し。

リテールファイナンス子会社の状況（社内管理ベース）

1. 資産の状況



2. 収益の状況



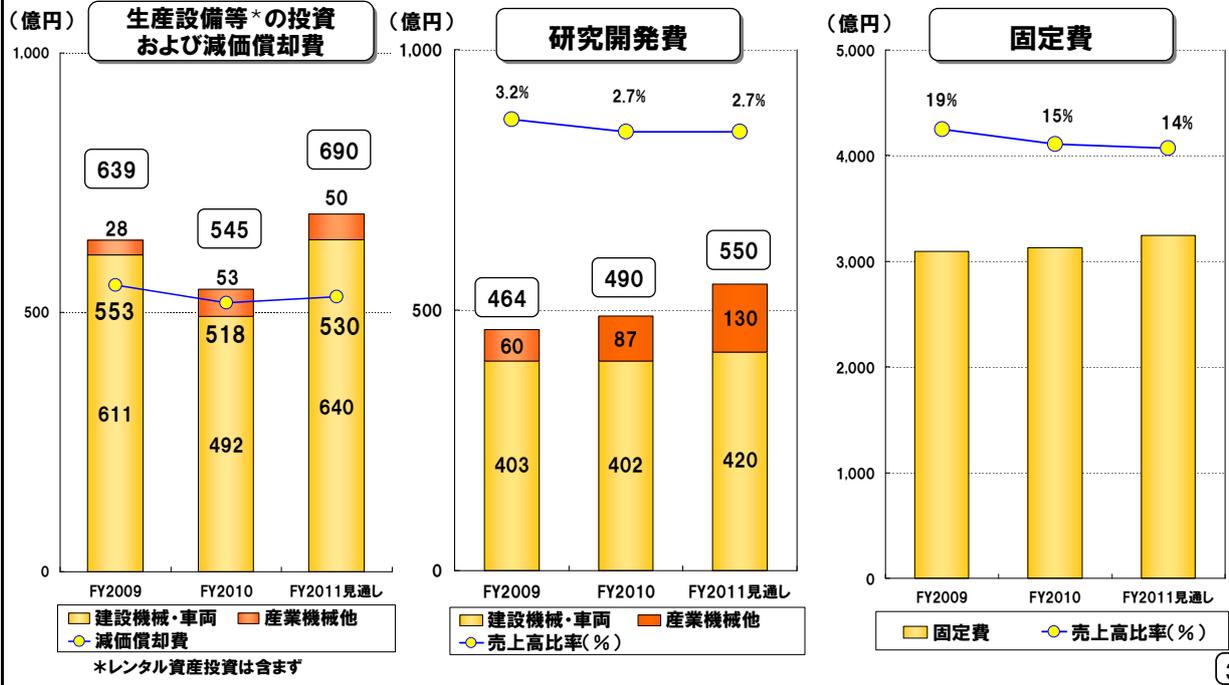
□リテールファイナンス連結7社の2012年3月末総資産は3,979億円となり、為替の影響約200億円を除くと対前期末比で実質約430億円の資産増となる見通しです。主な内訳は、中国が約+290億円、北米が約+150億円です。

□税引前利益は、中国で前年比17億円、北米で同7億円それぞれ増加し、合計で対前期比+26億円の増益となる見通しです。

□中国で貸倒損ゼロの状況が続いている他、北米、欧州の資産内容も良くなっており、貸倒損率が改善しています。

設備投資・減価償却費・研究開発費・固定費の見通し

- ・今後の成長に備え、試験研究設備等を中心に設備投資を実施。
- ・研究開発は、今後の成長に向けて、ICT化、環境対応、安全性向上等に投資。
- ・売上高が増加する中、引き続き固定費は抑制。



□2011年度の設備投資は、試験研究関連設備を中心に対前期比増額の690億円となる見通しです。

□研究開発費は前年比+60億円増の550億円、売上高比率は前年並みの2.7%となる見通しです。ICT化、環境対応、安全性向上などのテーマに重点配分します。

□固定費管理が定着し、売上高比率は毎年低下しており、今期は14%となる見通しです。

6. 中期経営計画
「Global Teamwork for Tomorrow」
の進捗状況

中期経営計画目標値と進捗状況

- ・円高が進む中、中期経営計画の各数値は目標達成に向けて順調に進捗。
- ・特に売上高営業利益率は大幅な円高にもかかわらず、着実に改善が進んでいる。

中期経営計画(FY2010-FY2012)の数値目標と進捗状況

NO	項目	FY2012目標	(参考) FY2009実績	FY2010 実績	FY2011 上期実績	FY2011 見通し
1	売上高営業利益率(全社)	15%	4.7%	12.1%	13.5%	13.8%
2	ROE	20%	4.1%	17.2%	-	19.6%
3	ネット・デット・エクイティ・レシオ (除くリテールファイナンス会社借入金)	0.4以下	0.60	0.50	0.52	0.52
		0.2以下	0.36	0.24	0.24	0.24
4	連結配当性向	安定配当: 20-40%	38%*	24%	-	22%

*構造改革費用を除く実質ベース

前提条件と実績

NO	項目	FY2012	(参考) FY2009実績	FY2010 実績	FY2011 上期実績	FY2011 見通し
1	売上高 (億円)	20,000 (±1,000)	14,315	18,431	-	20,500
2	為替	US\$ (円)	90	85	79	78
		EUR (円)	125	113	114	110
		元 (円)	13.5	13.6	12.7	12.3

中期経営計画の中間点にあたる現時点で、各数値とも目標達成に向けて順調に進捗しています。

中計立案当時に対し為替レートが大幅な円高となっていますが、収益体質の改善により、今期の売上高営業利益率は13.8%に改善する見通しです。

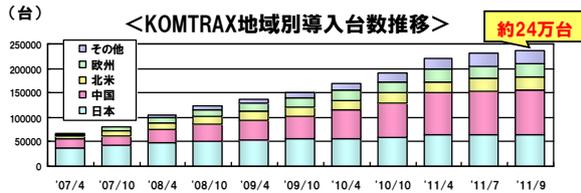
- ・KOMTRAXは、全世界で約24万台が稼働中。(2011年9月末現在)
- ・AHS(無人ダンプトラック運行システム)は今後の導入先、導入台数の拡大に向けた取組みを推進中。
- ・情報化施工は、今後の事業拡大に向けて、販売・サポート体制の構築および新商品開発を推進中。

1. KOMTRAXの進化

(1) KOMTRAX

①導入地域の拡大(約70カ国)

- ・FY11上期実績：フィリピン、ベトナム、南アフリカ
- ・FY11下期以降：ロシア、UAE等で導入準備中



②活用の更なる促進

- ・新排ガス規制対応地域で、KOMTRAXによる無償メンテナンス保証をパッケージ化し、代理店活用を促進

(2) KOMTRAX Plus (鉱山機械の健康管理システム)

- ・KOMTRAX Plusデータの活用によるオーバーホール需要の取り込み強化

(3) KOMTRAX Parts (部品の状態、交換履歴の把握)

- ・実用化に向けたテストを継続中

2. AHS (無人ダンプトラック運行システム)

- ①チリ、オーストラリア：計22台導入済
- ②導入先、導入台数の拡大に向けて準備中

3. 情報化施工 (建設現場の自動化)

- ①ダントツ情報化建機の開発
 - ・北米でのシーディングテスト開始
- ②北米代理店における販売体制構築の推進
 - パイロット代理店に対して、
 - ・デモ機を導入
 - ・営業、サービスマン向けトレーニングの実施

＜自動制御イメージ：ブルドーザの場合＞



□KOMTRAX搭載車は全世界で約24万台が稼働しています。2010年度はタイ・インド、2011年度上期はフィリピン・南アなどに新規導入しました。今下期はロシア・UAEなどへの導入を予定しています。

□鉱山機械の予防保全や、オーバーホール予測に有効なKOMTRAX Plusの改善も進めています。

□AHS (無人ダンプトラックシステム) は、オペレーター不足、安全性・生産効率向上などのニーズから引き合いが強まっており、導入先・導入台数の拡大に向け準備を行っています。

□ICTを活用した情報化建機の開発にも取り組んでおり、北米でブルドーザーのユーザーテストを開始しました。

重点活動項目②：環境・安全性能の更なる進化

- ・ハイブリッド油圧ショベルは、累計販売台数1,100台を突破。
モデルチェンジ車「HB205/215LC」は日本に加え、北米、欧州、アジア、オセアニア等で市場導入済。
- ・米国で新排ガス規制(Tier4)対応機種を導入済。
- ・鉱山向けダンプトラックのバイオディーゼル燃料プロジェクトおよび電動ミニ建機の開発を推進中。

1. ハイブリッド油圧ショベル

- ①HB205/215LCのグローバル展開
- ・約420台を販売済('11/9月末時点)
 - ・FY11/下期：中南米(ブラジル、チリ)、中国等で販売開始

【販売実績】('11/9月末時点)

モデル	地域	台数
PC200-8 ハイブリッド (約690台)	日本	約260台
	中国	約430台
HB205 /215LC (約420台)	日本	約360台
	北米、欧州、アジア オセアニア	約60台
計		約1,110台

- ②機種系列の拡大
- ・30トンクラス油圧ショベル
 - ・ホイールローダ等

2. 新排ガス規制(Tier4)対応

- ①対応機種の市場導入状況
- ・米国で市場導入済(油圧ショベル、ブルドーザ)
- ②サポートプログラムの充実による市場導入支援
- コマツアメリカ「Komatsu CARE」プログラムの例
- ・無償点検(500時間毎、~2,000時間/3年間まで)
 - ・DPF(フィルタ)無償交換(2回、~9000時間/5年間まで)
 - ・DPF(フィルタ)洗浄を含めた部品拡販、メンテナンス契約の強化等

3. 鉱山機械・ユーティリティ機械

- ①バイオディーゼル燃料(BDF)プロジェクト
- ・'11/5月 BDF精製プラント開所式
 - ・ジャトロファBDFを使用した実用試験実施中(順調に稼働中)
- ②ユーティリティ
- ・フォークリフト：HST車の本格導入準備中
 - ・ミニ建機：電動ミニショベル、電動ミニホイールローダ
ユーザーテストに向けた開発・試験実施中



□ハイブリッド油圧ショベルは、環境意識の高まりと、大幅な燃費低減効果に対する評価により、累計販売台数が1,100台を突破しました。

□米国では、新排ガス規制(Tier4)に対応する機種を市場導入するとともに、新サービスプログラム「Komatsu CARE」を用意し、拡販に努めています。

□今年5月、バイオディーゼル燃料の精製工場をインドネシアに立ち上げ、ダンプトラックを使った実用試験に着手しました。

□ユーティリティ事業ではHSTフォークリフトや電動ミニ建機の市場導入に向けて準備を進めています。

- ・ 鉱山機械の配車台数増加に対応したリマン・リビルド生産能力の増強、および部品の品揃え拡充を推進中。
- ・ 戦略市場の配車台数増加に対応したサービス体制の強化(中国、アジア等)を推進中。

1. 戦略部品の拡販 (GET・UC・リマン・定期交換部品)

①リマン・リビルド生産能力の増強

・リマン工場(コマツリマンインドネシア、コマツリマンアジア)での大型エンジン生産能力増強

・新興国でのリビルドセンタ拡充
 '11/5月: ロシア(クズバス)稼働開始
 現在4拠点(中国2、インド1、ロシア1)
 今後ブラジルにも開設予定



クズバス サービスサポートセンタ(左)とセンタ内のリビルドセンタ(右)

②品揃えの拡充と販売体制の強化

- ・品揃えの拡充
 Meバケットの機種拡大
 (中国:30トンクラス、FY11/下期~)
 土木専用履帯の市場導入(中国:'11/4月~)
- ・代理店の部品販売体制、商品教育の強化

2. 現場に直結したサービス体制の強化

①サービスサポートセンタの拡充

・11拠点('09/3月) → 27拠点('11/9月)
 FY11下期以降予定: モンゴル、ロシア(ハバロフスク)

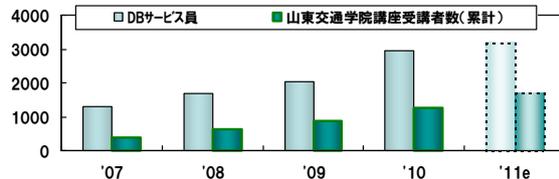
②パーツデポの拡充

・33拠点('09/3月) → 38拠点('11/9月)
 FY11下期以降予定: インド、マレーシア、オマーン

③サービス員・メカニックの育成強化

- ・フィリピン人材開発センタ
 鉱山機械のグローバルメカニック育成継続
 (第1・第2期生31名が鉱山現場で実習中)
- ・中国 山東交通学院との提携による
 サービス員育成講座の継続

<中国代理店サービス員・山東交通学院講座累計受講者数の推移>



□ 鉱山機械の配車台数増加に対応し、リマン・リビルドの生産能力増強および部品の品揃え拡充を推進しています。

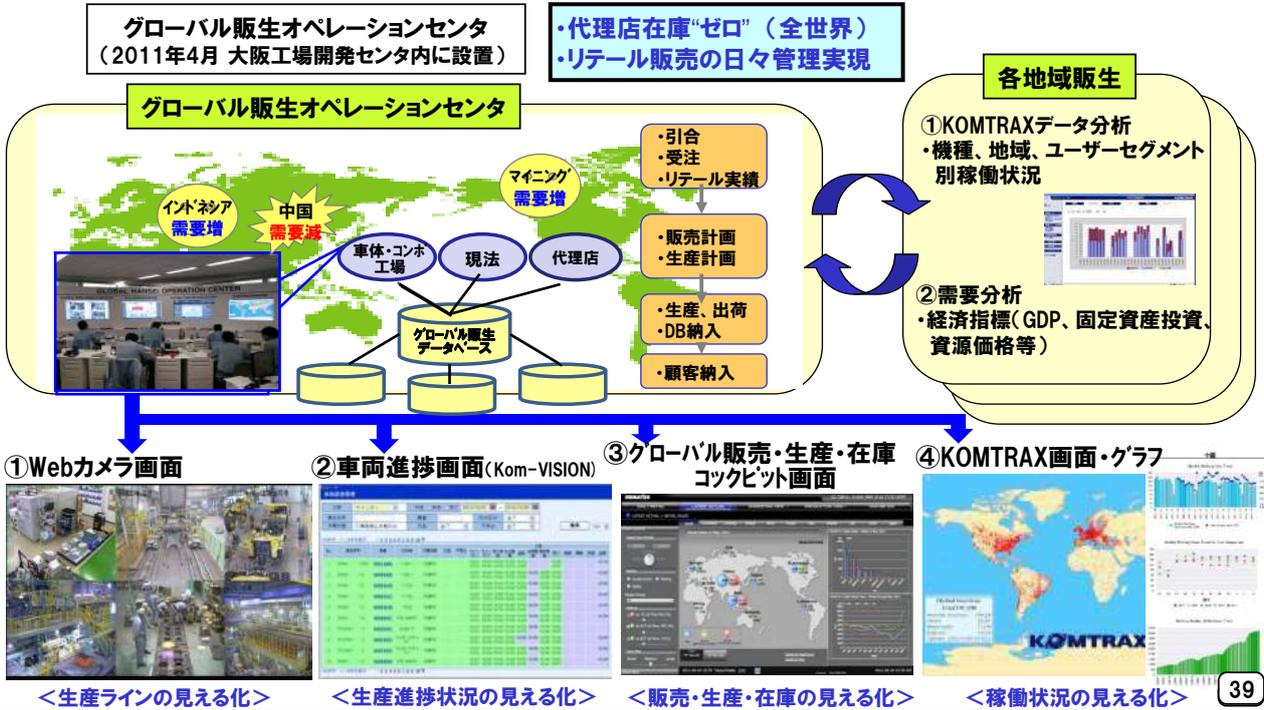
□ インドネシアのリマン工場は、引き続き鉱山機械用の大型エンジン生産能力を増強中です。またロシアでは、炭鉱集積地に近いケメロボ州クズバスにリビルドセンタを設立し、シベリア・極東を視野に入れた部品事業の拡大を図っています。

□ あわせて、戦略市場の配車台数増加に対応してサービス体制の強化を推進しています。

□ サービスサポートセンタやパーツデポなど拠点の増強拡充によって「お客様の機械を止めない」ことに注力し、部品・サービスの拡販につなげます。またサービス員やメカニックの育成強化にも力を入れています。

重点活動項目④：現場力の強化による継続的な改善の推進

- ・グローバル販生オペレーションセンターによるトータルサプライチェーンの「見える化」を推進。
- ・KOMTRAXデータの活用により、各地域・国単位の販生からグローバル販生へ進化。



□2011年5月、大阪工場内にグローバル販生オペレーションセンターを設立し、トータルサプライチェーンの「見える化」を推進しています。

□グローバル化・ICT化が進み、ボーダーレス化する環境に合わせて、従来各国・地域で行っていた販売・生産・在庫の管理を、グローバルベースでよりタイムリーに行う体制を目指します。



ブレードの自動制御機能を
搭載したブルドーザ
「D65-17」

【見通しに関する注記事項】

本資料に記載されている、当期ならびに将来の業績に関する予想、計画、見通し等は、現在入手可能な情報に基づき当社の経営者が合理的と判断したものです。実際の業績は、様々な要因の変化により、記載の予想、計画、見通しとは大きく異なることがあり得ます。そのような要因としては、主要市場の経済状況および製品需要の変動、為替相場の変動、国内外の各種規制ならびに会計基準・慣行等の変更などが含まれます。

コマツ 経営管理部 TEL: 03-5561-2687
FAX: 03-3582-8332
<http://www.komatsu.co.jp/>